

実践事例発表

青森県八戸市立東中学校

2学年主任(国語科)

田中静子

【対象児の情報】

- 中学校2年 男子
- 昨年2学期より特別支援学級に通級
- 12月より特別支援学級在籍

中学校入学以前は診察・投薬治療等及び特別支援教育でのサポートを受けておらず、二次障がいを発症している。

【対象児の情報】

- 高機能自閉症
- アスペルガー症候群
- 二次障がいによる不適応行動
- 安定しているときは論理的な思考ができる。
- 理科、読書が好き。
- 小さい子の面倒をみるのを厭わない。


【学校生活における困難】

- ①自己肯定感が低く、思い込みが強い。
→周囲から嫌われているという思い込み。
(資料1)
- ②大人数の中にとストレスがたまる。
- ③不適応行動後の自己嫌悪。 (資料2)
→「過去を捨てたい」「人を好きになりたい」

資料1 本年度当初の記述

自己紹介カード

<自分の似顔絵コーナー> 氏名 [REDACTED]



<僕・私ってこんな人で～す！よろしくお願いします！>

①～⑤までは答えてね！その他は自由に自己アピール！

①生年月日 ②血液型 ③得意な教科、苦手な教科 ④好きな食べ物 ⑤好きな芸人、芸能人 ⑥得意なこと ⑦良いところ、悪いところ ⑧ラーメンはしょうゆ？塩？とんこつ？それとも？理由も ⑨最近ハマっていること

①～⑨に答える

①11月10日 ②O型 ③教・理・英 ④カレーライス ⑤いない
⑥数字暗合 ⑦…… ⑧塩 ⑨ゲーム

自由に自己アピール

特にない

私の目標 《成長の》

○1学期

学習	生活	部活動
百位 以中 とれ れば い い と、 思 っ て い る	生 き て い れ ば 問 題 な い	で き る だ け 多 く 部 活 に い く

○2学期

○3学期

資料2(事前アンケート)

- 13) 自分はだめだと思ってしまうことが多い。 (A B C D)
- 14) 激しい怒りが抑えられない。 (A B C D)
- 16) 過去のいやなことを思い出すと、その場にもどってしまったような気になる。 (A B C D)
- 17) ぐるぐると嫌なことばかり頭の中をめぐって気持ちを切りかえられない。 (A B C D)
- 18) ほかにの人にうまく自分の気持ちを伝えられない。 (A B C D)
- 19) ほかに人の気持ちをうまく読み取れない。 (A B C D)
- 20) 物の整理整頓が苦手だ。 (A B C D)
- 21) 時間をうまく使って段取りよくやることを進められない。 (A B C D)
- 22) このほかに普段の生活で困っていることがあったら、書きなさい。

過去をすてたい
人を好むタイプ

【ねらいと学習目標】

○指導のねらい

- ①自己肯定感の低さ
- ②他者とのかかわりへの不安感
- ③不適応行動

が授業参加への足かせとなっていることから、改善を図り、授業参加の機会を増やしたい。



○学習目標

「他者とのかかわりへの意欲づけと
自己肯定感の醸成」

【学習計画】

- (1) 困り感についての事前アンケート実施
回答内容についての確認
- (2) 好きな物を写真に撮ろう(自己表現①)
- (3) 好きな物を教えよう(他者へのかかわり①)
- (4) 写真にタイトルをつけよう(自己表現②)
- (5) 好きな物を発表しよう(他者へのかかわり②)

これらの活動を通して、他者とのかかわりにおける成功体験を積みませ、楽しさを実感させるとともに、自己肯定感を高める。

(1)「困っていることアンケート」

困り感についての事前アンケート・回答内容
についての指導者側の質問より本人の意識
を確認(事前)

「困っていることアンケート」という
タイトルで、本人は困っているのだ
ということを前提に、アスペルガー
症候群の主な症状をもとに作成。
本人が困っていることとその程度
(4段階)を簡単に選択できるよう
にした。

【学習活動】

(2)「好きな物を写真に撮ろう。」(1時間め)

「好きな物」という課題により、
楽しく自由に選択させることで
本学習への意欲をもたせ、自分
の思い(好き)を表現させる。

(2)「好きな物を写真に撮ろう」

身の回りのものから自分の好きな物を選択し、タブレットで写真を撮る。

「校内で自分が好きなもの、面白いと思ったものをタブレットで写真に撮ろう。」というテーマで、タブレットを持って校内を自由に回った。



(2)「好きな物を写真に撮ろう」 生徒作品1・・・最初は物



「久しぶりに会ったアロエ」

去年は渡り廊下に飾って
あったのに、いつの間にか
なくなっていたので、「どう
に行ったのか」と思ったから
こんなところにも「アロエ」。

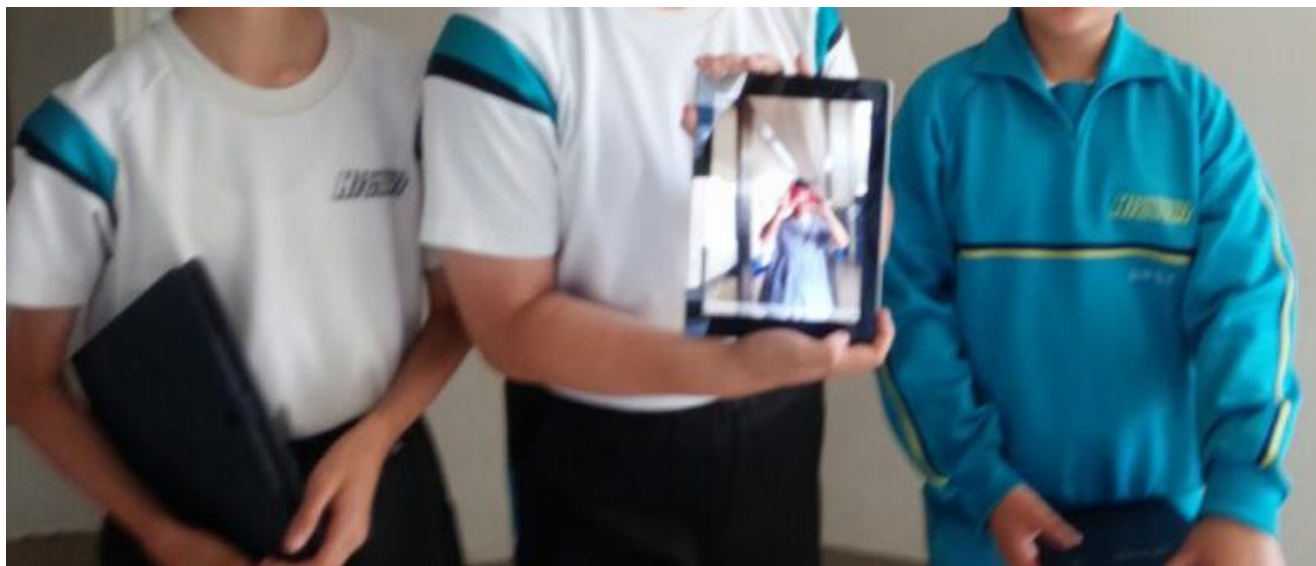
(2)「好きな物を写真に撮ろう」

生徒作品2・・・鏡に映る自分をタブレットで撮ると、「4人の僕」



鏡を使ったことで、
向かい合った物を画面に
映し出すというタブレット
の機能に気づき、
自分を撮った作品。
この後、対象が人物に。

(2)「好きな物を写真に撮ろう」



「先生も一緒に」

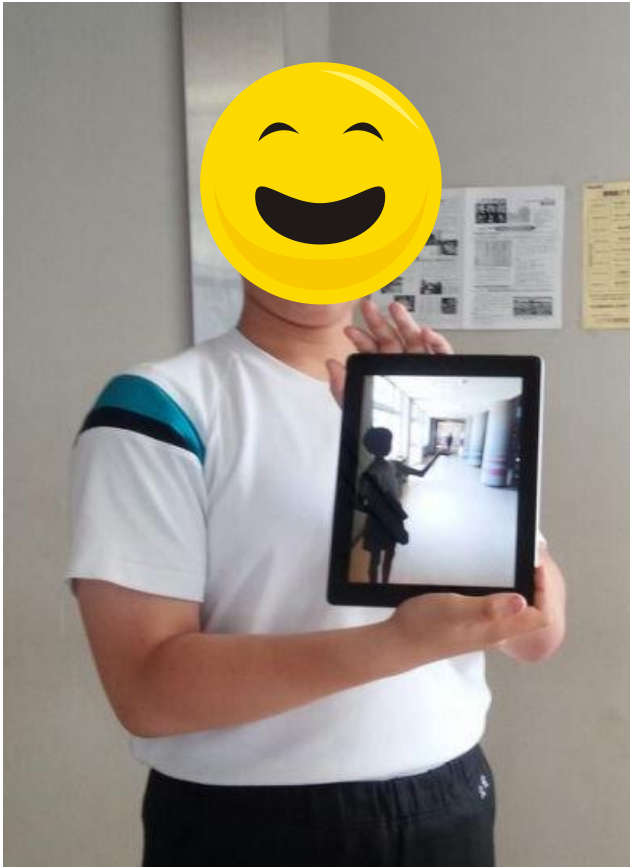
先生も一緒に「と言って
記録写真を撮っている指導者を
一緒に収めてくれました。
ナイスアイデア！彼の優しさです。

(2)「好きな物を写真に撮ろう」



対象が人物に移ると
今度は面白さを求め、級友と
共同で撮り始めました。
〇〇君の手のひらに
乗っている△△君」

(2)「好きな物を写真に撮ろう」



自分のアイデアが
うまく作品になって
ちよつと得意げな笑顔。
この活動の間、たくさん
笑顔が見られました。

(2)「好きな物を写真に撮ろう」



なにやら三人とも真剣な様子。
位置が難しいようです。

今回の傑作



【対象児の変化】

撮ってみたいという興味。



タブレットの機能に自ら気づく。



面白い物を撮りたいという意欲。



友だちと協力する。



上手くできたという成就感。



「作品を見せたい。教えたい」という欲求。



【学習活動】

(3) 「好きな物を教えよう。」(2時間め)

○まずは、少人数の「他者」と考え、次時、教室で指導者にタブレットを示して教える形を想定していたが、撮るとすぐ見せたいようで、説明したが、話し始めた。

○「見せたい」「伝えたい」という思いが強く感じられる。そこで、2時間目はテレビに接続し、他の生徒にも見せることにする。

(3)「好きな物を教えよう」

他の生徒の前での説明であったが、前時、すでに話し始めていたので、あえて発表メモや原稿なしで実施した。(より、日常に近い形に)



- 撮ろうと思った理由
- 工夫した点
- 撮ってみて感じたこと

などを説明できていた。

【対象児の変化】

「作品を見せたい。教えたい」という欲求。



他者からの反応・賞賛を得られる。



自己表現したことにより、認められた。



笑顔

このような学習活動を積み重ねれば
自己肯定感の醸成につながるかも・・・

【対象児の現在の状況】

○実は・・・不適応行動の回数は増加

状況は常に流動的という現実

○けれども・・・不適応行動の最中に会話

指導者「こういうことをすると後で苦しくなるよ」

（本人の困り感に沿った問いかけ）

対象児「人間は変わらない。」

「破壊して再生させるしかない。」

最中に会話できたのは初めて

【指導者側の変化】

不適応行動の裏側にあるものという視点の獲得
低い自己肯定感→自身の存在価値を見出せない。



人間存在への否定・他者への不信感
→大人数がストレス(推測)



「人間は変わらない。」「再生させるしかない。」
→不適応行動の誘因の一つか？(推測)

【指導者側の変化】

指導は常に推測だらけで手探りだが・・・

自己肯定感の醸成による現状改善への期待感

対象児の楽しそうな笑顔



積み重ねることで変化を期待できるのでは？

指導には希望が必要

【今後の見通し】

- 撮影場所・対象を変える。(意欲づけ)
- タイトルをつける。(言葉での自己表現)
- スライドを用いるなど発表の形態を工夫する。
(複数の他者を想定した表現)

あきらめず発展的に実践を繰り返していく



自己肯定感の醸成



困りの解消・現状の改善を目指して